

平成30年度 地域貢献活動支援報告書

地域イノベーション推進機構長 殿

所 属 生物資源学研究科
氏 名 関谷信人

活動テーマ	三重大学オリジナル酒米品種「弓形穂」を活用した多気町地酒ブランド作りへの貢献
実施期間	平成30年 5月 ～ 平成31年 3月
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>【栽培試験：大学農場】</p> <p>平成30年5月から平成30年10月に掛けて、大学農場の水田で「弓形穂」, 「山田錦」, 「神の穂」, コシヒカリの4品種を異なる窒素施肥法および栽植密度で栽培し、生育および収量を比較した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="422 1093 826 1323">  <p>田植え</p> </div> <div data-bbox="837 1093 1244 1323">  <p>生育調査</p> </div> </div> <p>【栽培試験：キャンパス】</p> <p>平成30年4月から平成30年10月に掛けて、キャンパス内の水田で「弓形穂」, 「山田錦」, 「神の穂」, コシヒカリの4品種を異なる移植時期および窒素施肥法で栽培し、生育および収量を比較した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="414 1715 818 1946">  <p>田植え</p> </div> <div data-bbox="829 1715 1233 1946">  <p>収量調査（脱穀）</p> </div> </div> <p>【大学視察】</p>

平成 30 年 8 月 7 日，四疋田営農組合，河武醸造，多気町役場の方々が三重大学を訪問した．地域イノベーション研究科にて平成 29 年度栽培試験の成果を共有したのち，キャンパス内で実施中の栽培試験を視察した．大学農場へ移動し，農場の水田で実施中の栽培試験も視察した．



水田視察



成果報告会

(2) 地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与，広がり）

「弓形穂」から醸造した清酒の人气が徐々に高まり，河武醸造は益々増産への意欲を示している．栽培試験で得られた成果は四疋田営農組合と共有され，少しずつではあるが「弓形穂」の生産状況に好影響を与えている．平成 30 年 8 月 24 日に開催された SUZUKA 産学官交流会農水森林交流サロン「リラックスサロン」（於バーベキュー鈴鹿峠）や平成 30 年 9 月 3 日に開催された第 1 回環境農林水産フォーラム in 伊賀（於伊賀研究拠点ゆめテクノ伊賀）において，これまでの活動成果を発表し，来場者と意見交換した．また，日本酒プロジェクトを実施する皇学館大学の関係者が本活動に興味を示し，南伊勢町での酒米栽培プロジェクトへの参加を打診されている．

(3) 共同実施者との連携状況

良好な連携を維持している．

(4) 大学の教育・研究成果のかかわり

報告者の指導する学部 4 年生が本活動の成果を元に卒業論文を執筆した．当該学生は修士課程進学後も本活動成果を発展させるような研究テーマに取り組む予定である．また，学部 3 年生も本活動の一部を卒業研

究として取り組んでいる。報告者は、地域の一次産業を調査する国際・地域資源学チュートリアルという演習を分担する。平成29年度に引き続き、平成30年度も受講生と一緒に営農組合と河武醸造を視察した。視察時の聞き取り調査を元に、三重大学祭（平成30年11月23・24日）において、「弓形穂」で醸造した清酒に対する消費者意識を調査した。



営農組合視察



河武醸造視察



消費者調査

(5) イベント等開催実績（名称，実施場所，参加人数等）
特になし。

(6) これまでの取組みによって得られた具体的な成果について
四疋田営農組合における「弓形穂」の栽培面積が増加し、河武醸造への原料供給量も増加した。本活動に対する県内での認知度が上昇した。
本活動を活用した卒業研究や演習授業を通じて学生の調査・分析能力が飛躍的に向上した。